



「ふくは内, おには外…」 2月, 気持ちを新たに!

なだれ込んだ子ども達, 「ふくは内, おには外」の大声と一緒に, 新聞紙を丸めた大きめの豆を部屋のあちらこちらにまき始めました。カメラを向けると, 今だ! とばかりに集中砲火, あっという間に鬼となった校長です。なだれ込んできたのは5人の5年生, 今年, 年男の子ども達です。

かつては各教室を回って盛大に豆(落花生)をまき, 子ども達が大騒ぎで拾い集めていた行事も, ここ数年の感染症の影響で制限を強いられてきました。しかし豆は新聞紙に代わりこそすれ思いは同じ, 様々な鬱憤!?を晴らすかのような勢いのある豆まきでした。これくらいでないと邪気を吹き飛ばすことはできません。

節分は旧暦の正月, 世が世ならばここから新しい年となります。残り2か月となった今年度ですが, 気持ちも新たに元気に過ごせそうです。2月に入り寒い日が続きますが, インフルエンザや新型コロナウイルス感染症による出席停止者はほとんどなく, 全体の欠席者も大変少なくなっています。豆まき効果は絶大です。



大谷翔平さんの思いを大切に!

テーブルの上には, 何かと話題の翔平グローブが3つ。そのグローブを中心に腕組みをする代表児童が6人。

クラスごとに自由に使用できるようにしたらいいんじゃない?

もう, 1回クラスで触ったから, あとはどこかに飾ったほうがいい。

もっと使えるようにしたい。一週間ごとに各クラスの日を決めて…。

一週間ごとじゃ, みんな回り切れないよ。

大谷翔平さんのプレゼントが学校に届けられ, 全校生に紹介されたのは1月の末のことです。石小では, 臨時の集会を持ち, 代表の子ども達のキャッチボールによる披露でしたが, それはもう蜂の巣をつついたような大騒ぎ, ガラスがビリビリと揺れるほどでした。その後, 全ての各クラスに巡回し, グローブが校長室に戻ったのは2月2日。兼ねてから, 宣言していた通りその後の活用については, 代表委員会で話し合うことになっていましたので, 早速昼休みに6年生の各クラス代表委員が校長室に集まり話し合いを持ちました。

話し合う中で, 「6年生はもう少しで卒業なので, 6年生が自由に使えるようにしたい。」という意見も起こりましたが, さすがに「6年生の代表委員が話し合って, 6年生だけが使うではまずいでしょう!？」と, 却下され, 一日ずつ各クラスで自由に使用することに…。ただし, 紛失したら大変なので, 定位置を校長室の前の廊下とし, 使用前後は必ず声をかけることが確認されました。(詳しい内容は, 後日代表者が放送で知らせる予定)

やや下火とはなりましたが, ずっと新聞の紙面を飾ってきたグローブ。送り主の大谷選手の願いは, 大切に学校に飾って欲しいというものではないはず。石小では子ども達の願いどおり, 多くの子ども達に触れさせ, スポーツや大谷選手の生き方に興味を持つきっかけとなればと考えています。もちろん大切に使用しますが, 子ども達の手に渡り傷んでよれよれとなることでしょう。しかし, そうなることが大谷選手の願いのはずです。(たぶん, おそらく)

スポーツ少年団等(野球, ソフトボール)に希望があれば土日の貸し出しも行います。多くの子ども達に夢を与える機会が増えることも大切です。どうぞ, 声をかけてください。



大雪の朝に

大雪の翌朝（火曜日）、いつもより30分程度早めの6:30分に通勤したのですが、すでに駐車場の雪はほぼ片づけてある状態でした。用務員の瀬谷さんをはじめ、教頭先生、多くの先生方の顔からは湯気が立ち昇っていました。聞けばまだ暗いうちから作業を始めたとのこと。

随分と過ぎてから子ども達が一人また一人と登校してきました。早めに家を出てきた子、家の前の片づけを手伝ってきた子、学校の下は車の送りで混雑が予想されるので、途中から歩いてきた子とそれぞれでしたが、みな一様に元気でした。どうやら大雪が迷惑なのは大人だけのようで、中には、半そで短パンで車から降りる子もいました。（さすがに声をかけ注意しました）この日は、全校集会もありましたので、用務員さんや先生方の朝の様子、徒歩通学の子どもの様子についてもふれました。

話は変わりますが、大雪の日は決まってある光景を思い出します。それは今から50年も前のことです。

前日の大雪で、雪の深さは膝小僧くらいでしたので、その日は登校できず欠席や遅刻する子が多くいました。月曜日でしたので、全校集会がありました。全員の登校を待っての集会は10時過ぎとなりました。約100名の全校生のうち体育館に集まったのは80名くらいだったでしょうか!?校長先生のお話は、「大雪だったのによく登校しました。」と、いうねぎらいの言葉だったと記憶しています。会が進む中、突然体育館の扉が開くとそこに用務員さんに連れられ、二人の児童が立っていました。全校生が一斉に振り返り歓声が起こります。そこにいたのは高学年と低学年の二人の兄弟。

私は当時中学年、学校までは比較的近かったのですが、雪の日も登校できる距離でした。しかし、その兄弟の家から学校までは優に4kmはありました。しかも50年前ですから、途中からは車はおろか、バイクでしか通れないような道でした。そのことを多くの子ども達が知っていたので、歓声が起こったわけです。これには会場の先生方もびっくり、校長先生からはマイクを通して特別に称賛の言葉がありました。全校生も拍手で讃えました。

後から知ったことですが、その日は、兄弟の父親が少し広い道路まで雪をはきながら途中まで送り届け、後は二人で歩いてきたとのことでした。おそらく片道2時間程度はかかったのではないかと思います。

雪が降れば、子ども達の通学路を確保するのは、当時は当たり前のことだったように思います。地域の大人が総出で雪をかき分け、子ども達の登校をサポートしました。学校は勉強する場所、学校に行かなければ勉強が遅れてしまうことを当時の保護者も一番に危惧していたのでしょう。

今回の大雪、多くの子ども達が徒歩やバスで登校しました。何人かの子ども達に早速インタビューすると、

〇〇の前に少しだけ残ってたけど、あとはちゃんとはいてあったから大丈夫でした。
バス停までお父さんと一緒に歩いてきた。
大人の人が道路に出て、雪の片付けしてました。

との返事。登校後に、残った雪の片づけを手伝う6年生の姿もありました。

思いやりと優しさが、心にしみる朝でした。

さて、前出の昔話には続きがあります。

兄弟をねぎらった校長先生、話を続けます。

皆さん今日は本当によく登校しましたね。でも、この大雪なので帰りが心配です。今日は授業は行いません。安全に家に帰りましょう。

帰り道は先生方がそれぞれに引率を分担し、方部ごとの楽しい集団下校となりました。50年前の思い出です。

